

平成 21 年度研究チーム活動中間報告（第 1 回目）

「日本語教育用学習支援システムを利用した読解教材の開発」

No.111 研究幹事：北村達也（知能情報学部）

本研究は、本学知能情報学部の北村，同国際言語文学センターの森川結花，上智大学国際教養学部の永須実香により実施されている。北村が開発を続けてきた日本語教育に関する e-Learning システムを活用して，インターネット上の読解教材を開発することを目的としている。

本年度は，まず中上級レベルの学習者が興味を持ちそうな文学作品のテキストデータを収集した。現代の作家の作品は文庫本等からスキャンし，著作権の切れた古い作品は青空文庫（インターネット上の文学作品データベース）から入手した。前者には，吉本ばなな著「キッチン」，江國香織著「デューク」等が含まれ，後者には，新美南吉「ごん狐」，芥川龍之介「南京の基督」等が含まれる。

次に，これらの作品を教材化するためのシステム「e-chuta」を開発した。従来北村らが開発してきたシステム「チュウ太の辞書ツール」は，テキストデータを即座に教材として出力することができるものの，出力結果の編集は困難であった。それに対して，e-chuta では，処理の中間段階を Microsoft Excel の表形式にて出力する。この表を編集し，その結果を再度このシステムで処理することによって教材が完成する。このシステムを使えば，何度でも編集作業を繰り返すことができるので，教材の作り込みが可能になる。また，読解教材の蓄積も可能になる。このシステムについては，2010 年 3 月に開催された日本語教育方法研究会（於：東京農工大学）にて発表を行った。

この e-chuta を活用して日本語上級者向け日本語読解学習支援サイト「日本文学 珠玉の小品集（愛称 tutor.bunko）」を作成し，<http://basil.is.konan-u.ac.jp/tutor/bunko/> で無料公開した。このサイトは，上記の文学作品テキストデータのうち，著作権の切れた 6 作品を対象にして作成した。それぞれの作品に関して，(1) 導入のための解説，(2) 説明の必要な語に英訳や解説を付与した本文，(3) 挿絵，(4) 語彙リスト，(5) 文型リスト，(6) 俳優等による朗読音声，(7) 多肢選択問題，(8) 記述式問題等の豊富なコンテンツを用意した。また，本サイトに関するブログも作成し，利用者とのやりとりも行っている。さらに，朗読音声は Apple 社が運営する iTunesStore に Podcast として無料公開し，多くの登録者を得ている。本サイトについては，本学情報教育研究センター紀要 9 号に論文を公表した。また，2010 年 5 月の日本語教育学会春季大会（於：早稲田大学）でのデモンストラレーションも決まっている。

本研究の成果を一般の日本語教師に普及させるため、2009年10月3日に「甲南大学リーディング・チュウ太ワークショップ」(於：本学)、10月24日に「同シンポジウム」(於：本学ネットワークキャンパス東京)を開催した。これらのイベントでは、この分野を代表する研究者による招待講演の他、本研究のメンバー3名による講演が行われた。前者では18名、後者では26名の参加者があり、活発な情報交換が行われた。この模様は月刊日本語2010年1月号(アルク社)にレポートが掲載されるなど、日本語教育分野において大いに注目を集めた。